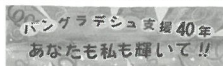


2025年活動スローガン 「バングラデシュ支援40年 あなたも私も輝いて!!」



報 告

2025年8月～10月支援分

〈バングラデシュ〉

●活動・イベント

- ・YURIKOエンゼルスクールで「HIROSHIMA DAY」のスピーチコンテストを行いました。(8/6)
- ・YURIKOエンゼルスクールで消火訓練を行いました。(8/6)
- ・バングラデシュツアーの参加者と共にダッカ動物園へ遠足に行きました。(8/8)
- ・YURIKOエンゼルスクールで期末試験が行われました。(8/24)
- ・YURIKOエンゼルスクールの男子生徒12名と女子生徒12名がガジプール県のスポーツ大会に出場しました。(9/21～25)

〈国内活動〉

- ・9月20日にボランティアセンターでバングラデシュ現地責任者のアジズル・バリ氏とYURIKOエンゼルスクール校長のアリフザマン氏を招聘してバングラデシュ支援40周年のお祝い会を開催しました。この40年であった思い出話などで盛り上がり、ボランティアの皆様楽しい一日を過ごしました。

イベント情報

秋のチャリティバザー

10/22 (水)

場所：本協会ボランティアセンター（伊丹市）
時間：10:00～14:00

●チャリティバザーにご協力ください●

バザーで販売する品物のご提供をお願いしています。食器・なべ類、シャツ、タオル、衣料、食料品、雑貨、カバン、おもちゃなどいつでも受け付けています。事務所までご連絡下さい。
☆取り扱っていないもの☆
家具、大型電化製品、自転車、使用済み食器等

御 礼

バングラデシュ支援40周年のお祝いとして会員有志の方々より4,481,750円をご寄付いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。



編集後記

皆さん、大阪・関西万博には行かれましたか？私はどうしようかと迷っていたのですが、孫が誘ってくれたので折角だからと会場に足を運びました。世界各国のパビリオンが立ち並ぶ中、私が一番印象的だったのはフランス館にあったモンサンミッシェルと厳島神社がしめ縄で強く結ばれている展示でした。以前フランス旅行の際に現地でみたモンサンミッシェルは、冷たい風の中海にボツンとどこか寂し気な雰囲気でした。しかし厳島神社と結ばれたこのモンサンミッシェルは少しも寂しそうではありません。どこか温かな雰囲気を醸し出すこの展示を見て世界中の国が平和につながることの大切さを改めて感じさせてもらいました。

2025年 行事予定

10月現在

10月	22日(水)	秋のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター	伊丹市
11月	1日(土)	チャリティバザー	さいたま市立中尾小学校	さいたま市
	2日(日)	チャリティバザー	であい市門戸厄神	西宮市
	5日(水)	チャリティバザー	名谷駅前広場	神戸市
	8日(土)	チャリティバザー	スーパーニシヤマ三田店	三田市
	18日(火)	チャリティバザー	JR六甲道南公園	神戸市
	28日(金)～12月8日(月)	バングラデシュツアー	バングラデシュ	
12月	6日(土)	バングラデシュ支援40周年記念式典		バングラデシュ
	6日(土)	チャリティバザー	アルザ泉大津	泉大津市
	20日(土)	街頭募金	JR天王寺駅前	大阪市

※行事予定はホームページ上にも掲載、随時更新しています。

会員募集

本協会の活動は皆さまの会費の他、募金や寄付金、バザーなどのチャリティイベントの収益金によって支えられています。ご協力をお願いいたします。

●正会員

一般会員 年額1口 6,000円
特別会員 年額1口30,000円

●DCEF会員(教育里親)

1ヵ月1口 2,000円

※送金方法は現金書留又は郵便振替でお送り下さい。
郵便自動払込方法も受付ています。

郵便振替・口座番号
01130-1-59586

※その他、バザー用物資によるご協力もよろしくお願いします。

会員数：一般会員 568名
DCEF会員 506名
(10月1日現在)

国際エンゼル協会は1982年伊丹市において設立され、「世界に愛を」をスローガンに、発展途上国への理解と協力を通して国際間の友好を深めると共に、すべての人々が共存できる平和な世界の実現に寄与することを目的としています。

発行者



認定特定非営利活動法人

国際エンゼル協会

〒664-0862 兵庫県伊丹市若菱町6丁目10番地
TEL.072(784)7504 FAX.072(784)4608
Home Page ● <http://www.angel-ngo.gr.jp>
e-mail ● post@angel-ngo.gr.jp



ホームページ

ANGEL NEWS

通巻213号
2025.10

@ANGEL_HOME_JAA



「エンゼルホームのこども達は、普段どのように過ごしているのですか？」—こうした質問を皆さんからよくいただきます。現地からは何かイベントなどがあるたびに写真と報告が届くのですが、集合写真や決まったポーズをとった写真が中心となってしまいます。どうしても皆さんにこども達の日常の自然な様子まで伝えきれないのが現状です。どうすればこども達のリアルな姿をお伝えできるだろうか、ここ数年ずっと考えてきた課題でした。

この課題の答えが見えたのは昨年12月のスタディツアーでの出来事でした。ツアーの最中、私達はホームのこども達と一緒に動物園へ遠足に出かけました。道中のバスの車内にはこども達、日頃のケアを担うケアワーカー2名、そして私達日本人だけ。車内では流行りの音楽が流れ、こども達は大きな声で歌ったり、踊ったり、笑い合いながらはしゃいでいました。どうしても普段現地のスタッフがそばにいと緊張してしまうのでしょうか、しかしこの時はこども達は周りを気にすることなく心から楽しんでいるようでした。家庭の事情で親元を離れて暮らすこども達には、見えない心の傷があるのでは……と心配していた私でしたが、そんな心配は杞憂だったようです。この日のこども達の姿は、何よりも「毎日充実した楽しい日常」の瞬間でした。

「この瞬間をみんなに見てもらうにはどうしたらよいか？」そこで考えたのが大人を介さずにこども達から直接日常を届けてもらうことです。こども達が自分達で日常の写真を撮り、それを届けてもらう。届いた写真をできるだけ早くSNSにアップすることで、こども達のリアルな日常を身近に感じてもらえるのではないのでしょうか。QRコードからInstagramのアカウントにアクセスできますので、ぜひ一度ご覧いただければと思います。SNSを通じて、支援してくださる皆さんとエンゼルホームのこども達の距離がより一層近付くことを願っています。

事務局長 東村 良平

バン格拉デシュツアー報告 8/4 8/11

国際エンゼル協会では会員の方々を対象にバン格拉デシュへのスタディツアーを開催しています。今年8月のツアーでは中学生・高校生から社会人まで幅広い世代の方々が参加し、エンゼルホームのこども達や現地の学生と様々な交流を行いました。短い間でしたが、皆さん有意義で楽しい時間を過ごされていました。

エンゼルホームのこども達との交流



抹茶の点て方を教える参加者達



「かざぐるま」作り



ダッカ動物園へ遠足

YURIKO エンゼルスクール訪問



授業を見学



YURIKOエンゼルスクールの生徒達

農村訪問



識字教室卒業式



カパシアの中学校を見学



DCEFの奨学生の家を訪問

バン格拉デシュ支援40周年を迎えて

コロナ禍以後バン格拉デシュ訪問が途絶えていたスタッフ2名が今回のツアーに同行しました

今回、私は6年ぶりにバン格拉デシュツアーの引率をさせていただきました。久しぶりのバン格拉デシュということもあり、見るものすべてが新鮮に感じられました。

このツアーには7名の方が参加され、皆さんエンゼルホームに到着されるとすぐにこども達と楽しく交流されていました。ただ、一人の中学生の参加者の子だけがあまりに日本と違う環境にうまく馴染めていない様子でした。同行していた母親も心配され、なんとか仲良くなれないかと悩んでいたようでした。そんな彼を変えてくれたきっかけはこども達との交流会でした。ホームのこども達は彼を気遣ってたくさん話しかけ、一緒に遊ぼうと誘ってくれました。そのおかげで彼も次第に打ち解けていき、みんなでよさこいを踊った時などは先頭に立って元気いっぱいに踊っていました。母親も「初めはどうなるかと心配しましたが、こども達同士楽しく遊んでいる姿を見て安心しました。これから息子の成長していく上で素晴らしい経験になったと思います」と喜ばれていました。

たとえ言葉が通じなくても、相手を思いやる心で通じ合えることをホームのこども達が教えてくれました。逆に彼らにとっても異国の同年代の子との交流は良い刺激となったことでしょう。こうした一人ひとりのつながりが集まって、私達国際エンゼル協会とバン格拉デシュを40年つなげてくれています。これからも途切れることなく、このつながりを未来のこども達につなげていきたいと思います。

スタッフ 加藤 圭二



数年ぶりに訪れたエンゼルホームでは以前と変わらないこども達の笑顔が私達を迎えてくれました。こども達やスタッフの皆さんの「こんにちは」の声に、つい先日も訪れたような温かさを感じました。特に印象的だったことは、エンゼルホームに最近入所した小さな女の子のことを他のこども達がいつも気にかけていた姿です。どんな時も参加者の方と手を繋げるように、またアクティビティをする時は一番にその子が何かをできるようにと一緒に手を引いてあげていました。それはこども達だけに限らず、エンゼルホームのスタッフも同じように手を差しのべてあげていました。いつも明るく優しいエンゼルホームのこども達、それはホームの中にいるすべての人が相手のことを大切にしているからだと思います。



今回エンゼルホームのこども達や現地の人々と触れあい、参加者の皆さんも私自身にとってもとても充実したツアーになりました。そして現地での変化や、変わらないことを実際に感じる事ができました。時にはその時その時に合わせて変化することも必要です。しかしエンゼルホームには決して変わらない大切な「心」がありました。相手のことを思いやる心を次の世代につなげていくためにも、これからもこの活動を続けていきたいです。

スタッフ 東村 とも子